

『ケーブル技術ショー2020』の応募要領

2019年5月

一般社団法人 日本CATV技術協会

目次

1. ケーブル技術ショーの目的・ねらい
2. イベントの概要
3. 『ケーブル技術ショー2020』の委託項目
4. 提出書類
5. スケジュール
6. 検討課題

1. ケーブル技術ショーの目的・ねらい

- (1) 日本最大のケーブルテレビの展示会「ケーブル技術ショー2020」は、ケーブルコンベンションの関連イベントとして2012年以降、協会が主幹事となって9年目となり、2020年6月10日(水)、11日(木)の両日、東京国際フォーラムで開催する。
- (2) ケーブルテレビの高度化は、2019年5月時点において、以下の状況にある。
- ① **新4K8K衛星放送は2018年12月1日に開始され半年弱が経過し、視聴可能な機器の出荷台数(2019.2末)は直接受信(チューナ内蔵テレビ、外付けチューナ)が55.3万台(出荷済み4K対応テレビ570万台の3%)、CATV受信(チューナ内蔵STB)が14.1万台で合計69.4万台と、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時点の50%普及を目指している状況です。**
A-PAB市場調査(2019.3)では、4Kの認知度は87.6%、8Kの認知度は72.5%と認知が浸透してきた。また、視聴状況は5.3%でその内、自宅のテレビでの視聴は30%の状況にある。尚、視聴した人の内80%は満足していると回答。
 - ② **2015年に開始済みの「ケーブル4K」サービスを行っているケーブルテレビ事業者は69社(504社中)。自主4Kコンテンツの制作を推進するとともに、全国のケーブルテレビ事業者が制作した4K番組を放送し、地域から全国に4Kの高品質な映像で情報発信を行っています。**
 - ③ **新4K8K衛星放送サービス開始に向けた課題の「受信環境の整備」については、**
 - **左旋衛星放送中間周波数帯域において、既にサービス中の無線サービス等への与干渉防止を目的に、左旋衛星放送受信設備に係る電波漏洩の限度値が2018.4に法制化された。**
 - **総務省の衛星放送用受信環境整備事業が開始され、左旋衛星放送受信設備への改修時に、助成金配布の実施が進められている(2019年度継続)。また、漏洩対策の相談窓口として「電波漏洩対策コールセンター」を開設。**
 - ④ **IoTの浸透に伴う無線サービス(地域BWA、LPWA、5G)の活用も各事業者、団体の下に実施され具体的なサービスインが予測される。**
- (3) ケーブルテレビサービスは、災害・防災情報の提供、地域密着の生活情報の提供など、安全・安心を担う生活インフラとしての役割が一層求められ、2018年7月時点で地方公共団体との災害発生時の情報提供を目的とする放送協定の締結は222者(504者の内)と増加している状況。

これらの状況を踏まえ、市場の環境変化、要求また、行政の施策に沿いCATV技術者集団の将来を担う、ケーブルテレビ業界の未来の実現に向け「ケーブル技術ショー2020」を開催する。

そのため、ケーブルコンベンション2020(主催:日本ケーブルテレビ連盟、日本CATV技術協会、衛星放送協会)との同時期・同会場開催を深化させ、より連携を密にした企画を作成すること。

テーマ:

業務委託応募会社が提案する。

2. イベントの概要

『ケーブル技術ショー2020』

(1) 日程: 2020年6月10日(水)、11日(木)

1日目(6月10日): 9時半～18時

2日目(6月11日): 9時半～17時

※展示会場準備 6月8日(月)、9日(火)

(2) 会場: 展示会〔東京国際フォーラム地下2階ホールE〕
技術セミナー〔同上 隣接セミナー室(1)(2)〕

(3) 規模: 展示スペース 5,000m²

1小間6m²(2×3m) 総小間数 約270小間

技術セミナー(1)(2) 約90席 2日間×2室

1日目: 1時間×6枠×2室

2日目: 1時間×5枠×2室

総枠数22枠(内、主催者枠 2枠)

3. 『ケーブル技術ショー2020』の委託項目

- (1) 本イベントを企画立案し、概算予算案を作成する業務
- (2) 本イベントに係わる事務局業務
- (3) 本イベントに係る制作物、Webサイト等を制作する業務
- (4) 本イベント会場における造作物、装飾物、電気器具等を甲の承認した形態、仕様にて設営し、イベント終了後これらを撤去処分する業務(テーマ展示コーナほかを含む)
- (5) 本イベントを甲の承認した内容にて実施運営する業務
- (6) 本イベント会場周辺において、本イベント来場者に対して会場への誘導等を行う業務
- (7) その他、前各号に関連または付帯する業務

4. 『ケーブル技術ショー2020』の評価項目

- (1) テーマの適切性
- (2) ポスター、ロゴの新規性
- (3) 展示会場受付・入口の格調性
- (4) 展示会場(セミナー会場)のレイアウト
- (5) 出展社募集力(新規ケーブル関連分野の開拓含む)
- (6) 来場者集客力(Webを活用する集客力含む)
- (7) 入場管理(胸章の識別、QRコード等)
- (8) 実施運営体制(JCTEAとの連携含む)
- (9) テーマ展示コーナーの企画
- (10) 新規チャレンジの企画(市場動向・ニーズに連動、収支差益増加の方策)
- (11) 出展者・来場者間の情報交流に関する企画
- (12) 効率的な実施予算(収支バランス)
- (13) コンベンションとの協働

5. 提出書類

7月19日(金)15:00締めきりで下記の1次審査書類を2部提出する。

- (1) 会社概要
- (2) 直近の事業実績・決算書
- (3) 過去の類似業務の実績、経験等記載書類
- (4) 実施体制(全体統括者・業務担当責任者・安全対策及び苦情対応など)
- (5) 暴力団対策法に抵触していないことを示す書類
- (6) 本イベントの企画書(書類2部、電子データCD)
- (7) 本イベントの収支計画書(当協会指定のフォーマットを使用する)
- (8) その他

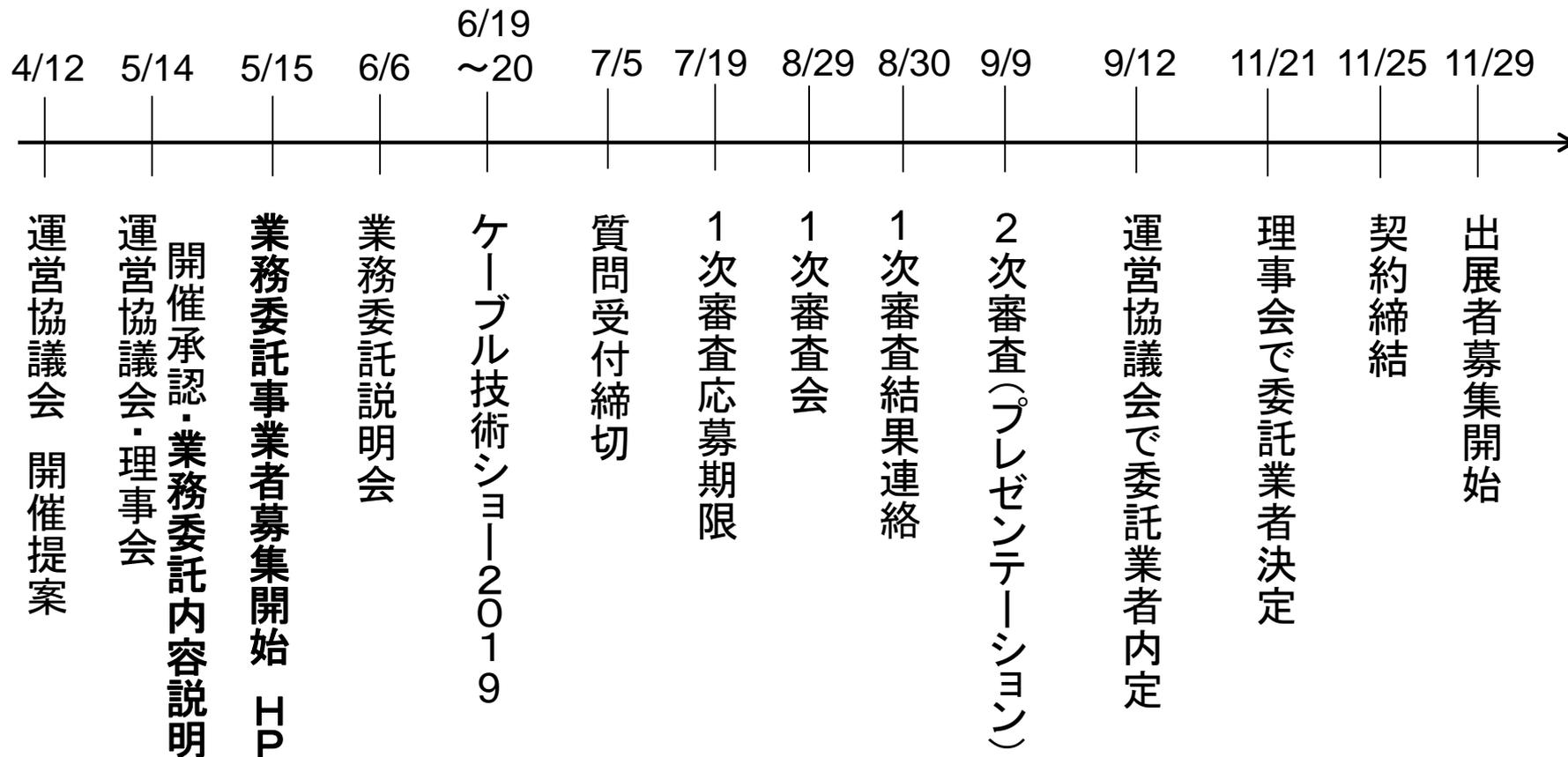
イベント終了後

- (1) 報告書(2020年8月23日(金))
- (2) 出展社、来場者情報(2020年8月23日(金))
- (3) 業務の引継書(ノウハウ含む)(2020年9月30日(月))

ケーブル技術ショー 2020

スケジュール(計画案)

2019年



7. 検討課題

- ① ケーブル技術ショー出展者の募集
(過去の出展者、他の展示会の当業界関係出展者等、防災減災関連、CSP/IoT関連)
- ② 会員に対する優遇策
- ③ 入場受付作業、入場者管理作業の効率化
- ④ 展示・セミナー以外のイベント
- ⑤ 自治体、防災関係、ホテル、病院など情報インフラ整備業界に対する集客
- ⑥ 広報・周知の規模
- ⑦ テーマ展示の深掘り
- ⑧ 出展者の満足度向上策
- ⑨ 会場での展示案内、ガイドブックの作成
- ⑩ 採算性の確保 * 収支差益の増加
- ⑪ アンケート回収数増および集計作業効率化
- ⑫ 業界動向、市場ニーズの収集

8. 継続イベント

- 来場者マイページ
- 出展社マイページ
- プレス広告・記事の掲載
業界専門紙の年間主要行事カレンダーへの掲載
- DM(来場登録開始以降、最低6回)
- 来場登録開始時の案内状の送付
- 入場管理はQRコードを使用
- 終了DM 出展者、来場のお礼
・来場者アンケート(マイページ活用) ・次年度の開催予定告知
- ホームページアーカイブの情報の作成・掲載

展示会場

東京国際フォーラム

(展示会) Eブロック Exhibition Hall (1)、(2)

- 展示ホール(約5,000m²)の展示スペースを小間売り
- 基本小間(幅3m × 奥行き2m × 高さ2.7m)

⇒ 約270小間

(技術セミナー) セミナー室1,2

- 2日間の1時間枠 合計20枠を提示(別途主催者セミナー2枠)

展示ホール 地下2階平面図

参考資料2

